

第 3 回部会協議を踏まえた対応方針及び計画への反映【厚生・教育部会】

No.	意見	対応方針・施策への反映	編-章-節 等
1	4-2-2 のグラフの出典を記載してはどうか。	4-3-1 (P105) の記載を参考に掲載します。	4-2-2 (P103)
2	周産期の妊婦や子どもに対する自殺対策は盛り込まれているか、またもし盛り込まれていないのであれば、盛り込んでいただきたい。	「4-3-1 出産・子育てしやすい環境の実現」において妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実を目指しております。 この度のご意見を踏まえ従来の記載に加えて、「現状と課題」及び「基本施策」内に明記することとします。	4-3-1 (P107～P108)
3	5-1-1「達成度をはかる指標・目標値」の「授業がよくわかる」と答える児童生徒（小6、中3）の割合で示す「基準値」81.3％は「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」を引用しているとのことだが、「よくわかる」と「まあわかる」の合算ではないか。	委員ご指摘のとおり、「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」の4択の項目のうち、上位2項目（よくわかる、まあわかる）であり、国や県でも同様の表現で指標にしております。 今回計上した数値は、4択のうち上位2項目の合算であることがわかるように修正しました。	5-1-1 (P113)
4	過去最高を超える勢いで外国籍児童生徒が急速に増加しており、それら児童生徒への日本語教育環境が圧倒的に不足している。 官民でこの状況をしっかり認識することが重要であり、プレスクール整備や支援員の拡充などについて、お金が掛かってでも取り組む必要がある。現状、受け皿となっている現場はいっぱいいっぱいな状況。教育分野の計画（5-1-1）に現状を改善するための対応方針を明記すべき。	「5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進」においても、外国籍児童生徒の学びの環境整備の必要性は認識しており、「現状と課題」にその認識を、また「主な事業」には「オープンドアスクール設置検討事業」を明記しています。 この度のご意見を踏まえ、従来の記載に加えて、日本語でのコミュニケーションが難しい外国籍児童生徒が増加しているとの認識と、学習環境充実の具体的な手段として集中日本語教室等での学びを「基本施策」内に明記することとします。	5-1-1 (P114)

No.	意見	対応方針・施策への反映	編-章-節 等
5	5-1-1「各主体に期待される主な役割分担」のうち「家庭」の項目について、後半部分の「家庭学習習慣の定着など、家庭教育を充実します」との表記に違和感があるため、適正な語句に修正いただきたい。	「家庭学習習慣の定着を図ります」に修正します。	5-1-1 (P114)
6	5-1-1「施策の方向性・展開」の基本施策2⑤で位置付けられている項目は最重要項目と考えられることから、①に位置付けてはどうか。	項目の番号は重要度順ではなく並列と考えておりますが、委員からのご指摘を踏まえ、素案で⑤とした項目を①とし、その他の項目(素案①から④まで)はそれぞれ1項目ずつ(②から⑤まで) 繰り下げます。	5-1-1 (P114)
7	5-1-1「施策の方向性・展開」の基本施策3③に「地域への関心を高めふるさと上田に愛着を持つ」とあるが、正確には「地域への関心を高め、ふるさと上田に愛着を持つ」であると思われる。適正な語句に修正いただきたい。	「地域への関心を高め、ふるさと上田に愛着を持つ」に修正します。	5-1-1 (P114)
8	教育環境の充実を推進していく上で、教職員の健康面、特にメンタルヘルス対策が重要であることから、項目として追加することはできないか。	委員からのご意見を踏まえ、5-1-1(P110)「施策の方向性・展開」のうち、児童生徒の心身の健康保持増進や定期健康診断等の適切な実施に関する基本施策3⑥に教職員の健康面に関する文言を追加させていただきます。 具体的には、冒頭の「児童生徒」を「児童生徒及び教職員」に修正し、後半の健康教育推進に関する部分については、児童生徒を対象としていることから、「自らの健康に対する関心を持ち」を「児童生徒が健康に対する関心を持ち」に修正します。	5-1-1 (P115)